

### 關東上陸地支局

昭和 年 月 日

史実調査參考資料 報告

所在地

中津縣宮古郡下地村

職官砲兵小隊長

摘要

所属部隊

砲兵大隊隊本部隊

氏名 陸軍少尉 [Redacted]

終戦時

支那事変  
以洋子於...  
自己、略丁

昭和十七年十月二十七日東部上陸隊二應召  
自昭和十七年十月二十五日滿洲國省防隊  
昭和十九年九月十五日命陸軍兵科見習士官  
昭和十九年九月十五日官古島防衛隊(二級戦)  
昭和二十年一月十一日任陸軍少尉補砲兵大隊  
昭和二十年一月十一日任陸軍少尉補砲兵大隊長

職、支那事変及主  
上、參加戦斗  
名ヲ記ス

所屬部隊  
編成年月日  
及編制表  
備、概要

昭和十九年九月十五日滿洲國省防隊  
昭和十九年九月十五日官古島防衛隊  
昭和十九年九月十五日命陸軍兵科見習士官  
昭和十九年九月十五日官古島防衛隊(二級戦)  
昭和二十年一月十一日任陸軍少尉補砲兵大隊  
昭和二十年一月十一日任陸軍少尉補砲兵大隊長

作戦經過  
概要

昭和十九年八月十二日神尾忠信宮古島上陸同年九月同島に於て  
昭和二十年五月三十一日對空戦隊斗務主任  
勤務自二十年三月末、六月三十日、天平作戦ニ參加、雨後終戦ニ至ル迄宮古島防  
衛戦斗ニ終結ス

最後、所屬部  
隊ヲ主ニ  
尚、以前、  
所屬部隊ノ  
分、概記ス

終戦(又ハ主力  
ノ戦斗終了)  
後ノ概況

終戦後、自強作戦ニ参加シ、之ヲ油作命ヲ以テ戦術作業トシ  
給子自強自足ニ依リ食糧難ヲ克服シ或ハ、子定是或ハ、子定  
量ニ依リテ、主トシテ朝夕ヲ利用シ幹部、実践、陶休  
精神、的方面ニ於テ、主トシテ朝夕ヲ利用シ幹部、実践、陶休  
トシテ、精神、的方面ニ於テ、主トシテ朝夕ヲ利用シ幹部、実践、陶休  
トシテ、精神、的方面ニ於テ、主トシテ朝夕ヲ利用シ幹部、実践、陶休  
トシテ、精神、的方面ニ於テ、主トシテ朝夕ヲ利用シ幹部、実践、陶休  
トシテ、精神、的方面ニ於テ、主トシテ朝夕ヲ利用シ幹部、実践、陶休

帰還輸送  
ノ状況ヲ伺  
記ス

帰郷(又ハ連  
絡)先

[Redacted]

其他ノ参  
考事項

備考

特設ニ記載セシメ第一復員者

実部ニ送付ス

開東上陸地支局

昭和 年 月

史実調査参考資料

報告

摘要

所在地	宮古島	職官 砲兵小隊長 陸軍中尉 	摘要 終戦時、 可記ス
所属部隊	砲兵第三大隊	氏名 	職 支那支隊 以詳ニ於テ 自己ノ略ヲ
支那支隊 以詳ニ於テ 自己ノ略ヲ	昭和十八年十一月一日 昭和十九年三月三日 三月五日 七月十日 九月二十二日 昭和二十年八月三日 昭和二十一年八月三日	職 支那支隊 以詳ニ於テ 自己ノ略ヲ	昭和十八年十一月一日 昭和十九年三月三日 三月五日 七月十日 九月二十二日 昭和二十年八月三日 昭和二十一年八月三日
所屬部隊 編年 及編制 備考	昭和十九年八月五日 昭和十九年九月十五日 昭和十九年六月三日 昭和十九年七月三日 昭和十九年八月三日 昭和十九年九月三日	所屬部隊 編年 及編制 備考	昭和十九年八月五日 昭和十九年九月十五日 昭和十九年六月三日 昭和十九年七月三日 昭和十九年八月三日 昭和十九年九月三日
所屬部隊 作戦經過 概要	昭和十九年八月五日 昭和十九年九月十五日 昭和十九年六月三日 昭和十九年七月三日 昭和十九年八月三日 昭和十九年九月三日	所屬部隊 作戦經過 概要	昭和十九年八月五日 昭和十九年九月十五日 昭和十九年六月三日 昭和十九年七月三日 昭和十九年八月三日 昭和十九年九月三日
終戦(又主力 戦斗終了) 後ノ概況	昭和十九年八月五日 昭和十九年九月十五日 昭和十九年六月三日 昭和十九年七月三日 昭和十九年八月三日 昭和十九年九月三日	終戦(又主力 戦斗終了) 後ノ概況	昭和十九年八月五日 昭和十九年九月十五日 昭和十九年六月三日 昭和十九年七月三日 昭和十九年八月三日 昭和十九年九月三日
その他ノ考 考事項	昭和十九年八月五日 昭和十九年九月十五日 昭和十九年六月三日 昭和十九年七月三日 昭和十九年八月三日 昭和十九年九月三日	その他ノ考 考事項	昭和十九年八月五日 昭和十九年九月十五日 昭和十九年六月三日 昭和十九年七月三日 昭和十九年八月三日 昭和十九年九月三日
備考	昭和十九年八月五日 昭和十九年九月十五日 昭和十九年六月三日 昭和十九年七月三日 昭和十九年八月三日 昭和十九年九月三日	備考	昭和十九年八月五日 昭和十九年九月十五日 昭和十九年六月三日 昭和十九年七月三日 昭和十九年八月三日 昭和十九年九月三日

M



關東上陸地支局

昭和 年 月

史実調査參考資料

報告

摘要

所在地

職官

所属部隊

職名

終戦時ノモリ

支那事変

昭和三年一月百理後上陸...

職、変更及至...

編成年月日

昭和三年八月十五日...

ノ記ス

及編制表

取隊長 陸軍大佐...

ノ記ス

概略

昭和三年一月...

ノ記ス

終戦ニハ...

終戦後ハ...

ノ記ス

その他ノ考

終戦ニ...

ノ記ス

備考

終戦ニ...

ノ記ス

備考

終戦ニ...

ノ記ス

備考

終戦ニ...

ノ記ス

備考

終戦ニ...

ノ記ス

備考

終戦ニ...

ノ記ス

備考

終戦ニ...

ノ記ス

關東上陸地支局

昭和 年 月 日

史實調查參考資料 報告

宮古島

職官 第二大隊通信隊隊長

摘要

所在地

山砲兵第二十聯隊

職官 氏名

陸軍中尉

II B

終戰時の職

支那事変

昭和三十二年七月十日 滿洲軍團境準備隊要員として同隊隊  
昭和三十二年十月十日 陸軍通信隊教育隊長として同隊隊  
昭和三十二年四月一日 南支那通信隊隊長として同隊隊  
昭和三十二年七月十日 海拉爾南支那通信隊隊長として同隊隊  
昭和三十二年七月十日 陸軍通信隊隊長として同隊隊  
昭和三十二年七月十日 陸軍通信隊隊長として同隊隊

職官更及至  
ハル参加戦斗  
名手記ス

不在部隊

昭和三十五年八月十五日 滿洲國吉林省公主嶺に於て編成  
昭和三十五年八月十五日 昭和三十九年六月二十七日 勅令下命左、編成  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日

備、概要

聯隊長 陸軍大佐 梶 松次郎 員三百五十五名  
第一大隊 九四式山砲十二門 彈藥 各門 砲  
第二大隊 九四式山砲十二門 彈藥 各門 砲  
第三大隊 九四式山砲十二門 彈藥 各門 砲

作戦經過

昭和三十九年八月十五日 中隊砲兵官吉島上陸同年九月下旬の月  
昭和三十九年八月十五日 中隊砲兵官吉島上陸同年九月下旬の月  
昭和三十九年八月十五日 中隊砲兵官吉島上陸同年九月下旬の月

最後所属部  
隊主  
尚ハ以前、  
所属部隊  
今ハ概記ス

終戦又ハ主力

終戦右ハ自活作業ニ専ラシシ之ヲ活命ニシテ我作  
業トシ總テ自給自足ニ依リ食糧難ヲ古服シ或ハノ  
定量或ハノ定量ニ依リ之ヲ足シ来リ

岸邊輸送  
ノ概況  
記ス

後、概況

昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日

歸郷(又ハ連)

昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日

其他ノ参考

昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日

備考

昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日

備考

昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日

備考

昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日

備考

昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日  
昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日 昭和三十九年八月十五日

史実調査参考資料報告

所在地 宮古島

職官 陸軍中尉

所属部隊 陸軍第一聯隊

氏名

（印）

支那事変  
以降の略歴

一 昭和十七年十一月一日 任陸軍少尉  
一 昭和十九年九月十五日 任陸軍中尉  
一 宮古島飛行場防衛隊副長  
一 天一等作戦隊副長

職変更及至  
十九年参加戦斗  
名不記不

一 宮古島飛行場防衛隊副長  
一 天一等作戦隊副長

所在部隊  
編成年月日  
及編制裝  
備概要

昭和十五年八月十五日 滿洲省公署領二於二編成完結也  
昭和十九年九月二十七日 勃魯下令大編成裝備  
聯隊長 陸軍大佐 松松次河 人員 二百五十五名  
馬 二百頭  
山砲兵 八十八人 聯隊本部  
才大隊 九八式砲 十門 彈藥庫 三三〇名  
才大隊 同右  
才大隊 九八式砲 十門 彈藥庫 三三〇名

折衝部隊  
作戦經過  
概要

昭和十九年 九月十日 沖縄県宮古島上陸  
同年 九月十五日 飛行場設置作業  
同年 十月 台湾沖航空戦中勃魯に従軍  
昭和二十年 一月 勃魯戦中 飛行場施設整備並  
一 勃魯監視勤務  
白根中隊 二月末 天一等作戦隊副長に任ぜられ  
三月 宮古島防衛隊中隊長に任ぜられ

最後 所属部  
隊が主として  
尚ソ以前  
所属部隊  
名不記不

終戦（又ハ主力  
戦斗終了）  
後ノ概況

終戦後ハ自派作業ニ専念シ之ヲシテ  
戦術作業トシテ總ニ自給自足ニ依リ食糧難ヲ克服セシメ  
了シ定置或ハ空置ニ依リ之ヲ免ズルニ事ナリ精神  
面ニ於テハ五トニテ朝夕ノ利用ヲ精進シ  
紀律訓練等亦及ハ作業向ノ現場指揮ニ務メ  
ト相模ヤ人精神ノ修養ニ精進シ  
ニ当リテハ半船三ノ早船ニ精進シ  
ニ依リテハ故者ニ事ニトシテ精進シ  
上陸ニ依リテハ

帰還輸送  
ノ概況ヲ併  
記ス

帰郷（又ハ連  
絡）先



其他ノ参  
考事項

機材ニ記載セシメ才一復員省ニ人実部ニ送付ス

備考



